



TITLE:

支部通信 : 支部だより(7・8月)

AUTHOR(S):

CITATION:

支部通信 : 支部だより(7・8月). 天界 1937, 17(198): 470-470

ISSUE DATE:

1937-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167540>

RIGHT:

支部通信

支 部 だ よ り (7・8月)

うつとうしい梅雨から初夏に移り、ペルシ日食観測大成功の快報に各地の支部も愈々活況を呈して居る。

7月2日からは11日—21日を除いて8月中まで大連支部主催にて連夜観望會が開かれ盛況であつた。7月には亦「高知星の會月報」2號が發刊され内容も充実して來た。上旬には大阪支部の「銀河」第4號が、下旬に京星會の「京星」第14號が夫々偉容を誇つて發刊された。兩誌共既に立派な天文雜誌である。

8月5日大阪に於いて打合會が開かれて愈々9日から1週間京阪神各支部員有志の参加にて天體觀測實地指導の目的にて生駒山上に於いて實施された。滞在及參加者の延人員は約90名に及び、12・13・14日の3日間は特に「納涼天文の夕べ」として一般公開され、12日は舊曆による「七夕の夕べ」として喜久舞塾の舞踊と宮森大阪支部長の講演、13日は天文映畫と田中宗愛理學博士の講演と觀望會、14日は上弦月の觀賞と名曲演奏で連夜共大賑ひにて3夜間の一般參加者は約3000人位にて大いに天文普及の實績を舉げた。望遠鏡12臺は大阪より運搬された。北支に事變が突發し非常時日本の國氏は舉國一致の愛國心に燃へて銃後の護りも固く結ばれた。天文學は人智が拓けると共に最も古く勃興し、現在に於いて最も高遠最大の學問であり、一日たり共天文學なくしては吾人は生活ができないであらう。國防も一日も忽がせにはできない。人類福祉に向つて天文學の向上進歩の爲天文人は此の機に臨み一層の理解と普及に努め様ではありませんか。各地の支部の強化を希ひます。・

9月上旬に「銀河」第5號の發行あり、仲秋の名月觀賞で再び生駒山上に望遠鏡の砲列が敷かれた。

支部だよりは各地支部だよりを綜括して發表する事となり、各支部は從來通りの報告を本部地方課宛に御送り下さい。(係)

天 界 第 1 9 8 號

昭和12年9月24日印刷
昭和12年9月25日發行

〔定價金30錢〕 送料金1錢

編輯兼發行者 京都市山科、花山天文臺内(振替大阪56765)東亞天文協會(代表者山本一清)
印刷所 京都市中京區柳馬場三條南入 株式會社似玉堂〔電本426.427.4501〕
印刷者 京都市中京區柳馬場三條南入 福井松之助
賣捌所 東京市芝區南佐久間町2の3 恒星社(振替東京64738)